なかむら りゅうたろう
中村 龍太郎

ゲストハウス「暮らしを紡ぐ宿えのん」代表
「nating design（ナティンデザイン）」代表

08
-北部-

応募のきっかけは？

阿武町に移住し、築100年の古民家を引き継いでゲストハウスに改修することを先に決めていました。ただ、開業までの期間、収入がなくなることに不安を感じていたため、この古民家の前オーナーで、かつ協力隊の先輩でもある方にご紹介いただいた協力隊に応募しました。

着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

海のそばなので夜にとても風が強かったり、山陰の冬の曇りがちな天気に気持ちが沈みがちになったり、虫が多くて大変ということはありますが、ギャップはあるのが当たり前です。地域の方の暮らしの知恵の豊かさには良い意味でいつも驚かされ、都会ではなかなかできない経験がたくさんありました。ご近所から畑の野菜を食べ切れないほどいただき、「作り話でなく、本当にこんな出来事があるんだ」と驚いたり、空き家のDIY改修を手伝ってくださる人たちに感激したり、田舎暮らしで度々言われる「距離感の近さ」は、むしろ自分が求めていたことだったのかなと感じています。

成長したな、と思えることは？

何事に対しても「やってみれば意外とできるもんだ」という感覚で生きられるようになったことです。いろいろな方に助けていただき、ここまで来られたと思うので、常にご縁を大切に感謝を表すようにしています。ゲストハウスの「えのん」の名前は、「縁（EN）」と「恩（ON）」で「ENON」ということで名付けました。

隊員時代：ABUキャンプフィールドPRイベント

隊員時代の思い出を教えてください

着任前は建築設計の仕事をしていましたので、その経験を生かし、「ABUキャンプフィールド」の施設整備を担当しました。また、それに付随して、町の魅力発信やキャンプ場PRのイベントを県内外で多数企画したり、隣接する道の駅でのマルシェの立ち上げや、NPO法人「日本で最も美しい村連合」への阿武町の加盟承認に取り組みました。これらは全て、すでに町にある魅力を分かりやすく体験したり、知ってもらうためのもので、新しく手を加えたものはほとんどありません。それをそのままの町の豊かさとして、皆さんがしみじみと感じて喜んでくださったことは良い思い出です。

現在、そしてこれからについて

ゲストハウスはコロナ禍により休業中で、現在は、主にグラフィックデザインの仕事をしています。また、来春には、2年前から習っている竹細工を生かして、暮らしの道具を扱うお店「暮らしの荒物屋めぐる」も開業予定です。震災やコロナ禍など予期せぬ出来事を経て、一つの仕事に固執せず、その時にできる方法で仕事をつくっていけば良いんだと感じています。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

協力隊になることを目的とするのではなく、「どんな生き方をしたいのか」を自問した上で、そのための手段として協力隊制度を利用する方が良いと思いますよ。

なかむら りゅうたろう
中村 龍太郎さん

協力隊として

| 着 任 地 | 阿武町
| 活動期間 | 2019年1月～2021年12月
| 活動内容 | まちの縁側担当

現在の仕事

ゲストハウス「暮らしを紡ぐ宿えのん」代表、
「nating design（ナティンデザイン）」代表
| ホームページ |
https://abu-guesthouse-enon.com/

「暮らしの荒物屋めぐる」

中村さんのあゆみ

- 2011.03 宮城県仙台市で東日本大震災に遭い、暮らしについて考え始める
- 2017.11 「みんなの移住ドラフト会議」参加、阿武町の存在を知る
- 2018.05 阿武町を初訪問。物件引き継ぐことになる
- 2018.08 結婚
- 2019.01 協力隊着任
  キャンプ場施設整備、PRイベント企画運営、マルシェの立ち上げなど
- 2019.09 ゲストハウス「暮らしを紡ぐ宿えのん」オープン
- 2020.08 夫婦デザインユニット「nating design」の活動開始
- 2020.12 竹細工を習い始める
- 2021.12 協力隊卒業
- 2023.04 「暮らしの荒物屋めぐる」オープン予定